令和７年度　第２回我孫子市小中一貫教育推進委員会　議事録

開催日時：　令和８年２月１０日（火）　１５時～１６時３０分
開催場所：　我孫子市教育委員会大会議室
出席者：　我孫子市教育委員会教育長　丸　智彦
我孫子市小中一貫教育推進委員 10 名（２名欠席）
内海﨑　貴子、山本　幸恵、金児　美佐保、田中　玲子
鈴木　沢子、鈴木　伸樹、蒲野　毅、森政 俊光、今井 涼
我孫子市教育委員会小中一貫教育推進室長及び推進室事務局４名
傍聴人：　１名

１　丸　智彦　教育長　挨拶

本日はお忙しい中、推進委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。先週の木曜日に地域学校協働活動の推進員さんの研修会でもお話ししたのですが、先週はインフルエンザが猛威を振るいまして、我孫子市には 253 学級ほどありますが、そのうちの約５分の１が学級閉鎖や学年閉鎖という状況にありました。今週は 10 学級ほどに落ち着いてきましたが、あと２週間は油断できない状況です。ちょうど年度末のまとめの時期でありますから、学校現場も大変だろうと思っております。

今日、小中一貫教育についてお話ししなければなりませんが、私の頭の中にはどうも衆議院選挙の結果がずっと残っていまして、あそこまで大勝するとは思っていませんでした。ただ、高市さんの解散時の記者会見を見た時に、言っている内容がすんなり頭に入ったんですね。それがすごく印象的で、要点を得た発言といいますか、私自身すごく勉強になるなと思いました。

あとはやはりオリンピックです。フィギュアの団体のコメントを聞いたりタイムを見たりして、涙が出ました。あぁ、いいな、チームって。ああいう姿を子供たちにもぜひ見てもらって、チームの良さなどを真似ていただけるといいなと思っています。

本日はこの１年間の状況について事務局から話がありますので、次年度に向けて皆様から忌憚のないご意見をいただければ嬉しいです。よろしくお願いします。

２　委員長　挨拶

丸先生のお話を聞いていて、高市さんのことを私も思い出しておりました。演説の時に、二子玉川の公園での最後の演説をカメラが映していたのですが、その中に小学生が出てきて、「一度会いたかった。すごくはっきりといろんなことを言っているから僕はいいと思います」と言ったんですね。

しばらくしましたら、今度は中学生くらいでしょうか、「女の人が総理大臣になったってすごくかっこいいと思う」という子供たちの声を拾った映像を見ました。

教育ですから政治的中立性は守らなければなりませんが、日本を背負う立場の人に子供たちが関心を持ち、「あぁ、かっこいいな」「ちゃんとやってくれるんだ」と期待を寄

せる、そうした関心の持ち方が、何か（教育の）ステージに繋がるものが出てきてくれたらいいなと思った次第です。

今回は今年１年間の実施状況について皆様からご意見をいただく場ですので、忌憚のないご意見をお願いいたします。

３　議事

（１）令和７年度の我孫子市小中一貫教育推進状況について

【事務局より説明】

（資料に基づき以下について説明）

①各中学校区のオリジナルカリキュラム検証授業について

【資料１】各中学校区のオリジナルカリキュラム

【資料２】各学校の年間の取り組み

映像スライドを使用して、久寺家中学校区の事例紹介。

②各中学校区オリジナルカリキュラムの成果と課題

【資料３】各中学校区オリジナルカリキュラムの成果と課題

・地域の方との交流をオリジナルカリキュラムに組み込むことで、児童生徒が「地域の一員である」という自覚が深まりました。一方、外部連携に伴う教職員の負担が課題に挙がっています。これは、教職員の外部連携に関する認識不足が原因です。地域学校協働活動推進員の効果的な活用方法を研修等で周知していきます。

・教職員同士の参観や交流により、教職員間の理解が進み、発達段階に応じた系統的な学習の重要性に対する意識が出てきました。小学校同士が違う内容で実践していると、繋がりが難しいことがわかりました。また、小と中の接続にはまだ課題があります。次年度は中区の教職員が「教務部会」「研究部会」「特別支援部会」など、参集して話し合う場を設けられるように呼び掛けていきます。

・他中区に紹介したい素晴らしい実践をしている学校が増えてきています。教職員のねらいがきちんと表れている学習、児童生徒が主体的に学んでいる学習などです。一方で、講話を聴くことが中心の学習や、ゲストティーチャー主導の体験学習など、「受け身」となっている学習も多くあります。現在、小中一貫だより「繋ぐ」では、全ての活動を掲載していましたが、数が多く埋もれてしまうこともあったと思うので、「他校へ広めたい実践」「紹介したい実践」が際立つよう、次年度は内容を精選して、広く周知したいものを作成していきたいと思います。そして、教育委員会がホーム＆スクールで掲載校の保護者に一斉送信したいと思います。

【質疑応答】

（各委員より）

・先日、小学校で地域の方と活動するための準備を見学しました。生徒たちが「どうすればもっと良くなるか」と自分たちで試し合い、リズミカルに動く工夫をしていました。先生方はそれを見守り、生徒たちが自発的に声を掛け合っていました。サボって

いる子は一人もおらず、先生方の「見守る指導」が共有されていると感じました。受け身ではなく、見通しが持てるからこそ自主的な活動に変わります。 提案ですが、内容を共通化した際、他校の頑張りを知るための「コンテスト」のような、モチベーションを上げるアプローチはできないでしょうか。また、地域活用の方法が分からない先生のために、スクールソーシャルワーカー（SSW）のような地域に詳しい方を活用して研修を行うことはできませんか。（委員）

➡教育相談センターには SSW が在籍していますが、課題はコミュニティ・スクールの活用方法が一般教職員にまで周知されていないことです。推進員の方々の活動を広く知らせ、学校内にコミュニティルームを作るなど、日常的に接点を持てる場を作っていきたいです。（事務局）

・第一小学校と湖北小学校を参観しました。湖北小では、地域のお年寄りに教わったお礼にお楽しみ会を企画しており、ダンスや制作などチームに分かれて想像力を膨らませていました。これを中学生に見てもらえれば、さらなるつながりが生まれると感じました。 一小の「我孫子に人を呼ぶには」という授業では、手沼に水中トンネルを作るなどの面白い発想がありましたが、驚いたのは「お金の話」が多かったことです。地域性もあるのかもしれませんが、一方で、発表で緊張した子を後ろから助けるクラスの絆も見られました。また、湖北台中学校の生徒が東小学校へ草刈りなどの地域貢献に来てくれています。小学生が「中学生の背中」を見る機会は非常に大事です。小学生の発想を中学生にぶつけて意見を聞くことも、一貫教育として必要ではないでしょうか。

・中学校の職業人講話を参観しましたが、非常に真摯でした。職場体験では、自分の祖母の経験から「福祉で自分に何ができるか考えたい」という、しっかりした動機を持つ生徒がいました。 昨日の会議でも、中学生がボランティアに参加してくれた話が出ました。大人は子供と関わりたいと思っていますが、一歩が踏み出せない状況があります。今のボランティア推進の流れで、雰囲気が変わってきたと感じています。

・湖北小 3 年生の総合学習を見学しました。2 回目の交流ということで、子供たちが「もっとお年寄りを楽しませたい」と能動的に計画しており、実行委員が自分たちで進行を相談している姿が素晴らしかったです。我孫子中学校区についても見ましたが、テーマは「防災」で繋がっているものの、学校によって道徳、総合、理科など扱う教科がバラバラです。これではどう繋がるのか心配です。校長先生方が集まっての話でも「同じカリキュラムをやった方がいい」という話が出ました。

➡おっしゃる通り、評価の観点がずれると見えにくい部分があります。先日、教務部会でも「単元をもうちょっと合わせよう」という話をしました。最終的に中学生になった時に地域を守る力となるよう、小学校と内容を揃え、評価も含めて整理していきたいです。（事務局）

（２）小中一貫の日について

（３）今後の我孫子市小中一貫教育推進の見通しについて

【事務局より説明】
（資料に基づき以下について説明）
③小中一貫の日について
　今年度も、全ての中学校で、小学校６年生が直接中学校へ登校し、授業参観や授業体験、部活動見学等を実施しました。画面をご覧ください。（各中学校区の簡単な紹介）「交流」を意識し、他校の小学生とグループになって中学校の授業を体験する学校や、小学生と中学生が質疑応答する時間を設けた学校、校舎や部活動を中学生が誘導・案内する学校がありました。また、中学生が授業を受けている様子を小学生が参観する学校や、中学生が歌声や学習成果の発表を行うなど、中学校での生活をイメージできる工夫をしている学校もありました。
　反省としては、学校からは「感染症が流行する実施時期」が挙げられています。また、参集の難しさや、どの程度小学生のためになったのかなどもありました。
　「小中一貫の日」は「実施時期は卒業間近の方が効果的」という認識が強くあります。「小中一貫の日にできることを詰め込もう」と、一大イベントのようになっているところもあります。例えば布佐中で行っている「布佐中登校の日」のような日を設定する、中学校の学習参観の日に小学生も参観に行く、体育祭の応援に行く、部活動の紹介動画を作成する、オンライン交流の日を設定するなど、各学校で柔軟に考えて「目的意識がしっかりとした中学校区オリジナルの活動」を実施できるように呼び掛けていきたいと思います。
④令和８年度の小中一貫教育について
　続いて資料５をご覧ください。先ほども次年度のことに少し触れましたが、令和８年度の小中一貫教育について説明します。
　研修については現在検討中です。地域学校協働活動推進員との連携の仕方の研修、各中学校区のオリジナルカリキュラムをよりよいカリキュラムへしていく研修、または小中一貫の日を見直す研修などを考えています。第２次教育ＩＣＴ基盤が整備されましたので、十二分にその環境を活かして活動が深められるよう、中区や地域と繋がるツールとして実践を広げていきたいと思います。
　中学校区ごとの取り組みですが、引き続きオリジナルカリキュラムの実践と見直しを進めていきます。また、グランドデザインの見直しについて、声をかけていきたいと思います。先日地域学校協働本部の研修会で「グランドデザインは中期目標を必ず入れること」とお話がありました。各校のグランドデザインにも取り入れていきたいと思います。
　カリキュラムの検証についてをご覧ください。検証期間を令和７年度から令和９年度までの３年間、積極的な相互参観を進めていきたいと思います。
　小中一貫の日についてですが、先ほどもお話ししたように、市がこのように打ち出すことで各学校が「一大イベントを作らなければならない」と感じさせてしまっているかもしれません。次年度は各学校で実施時期も含め柔軟に取り組めるようにしていきたいと思います。
　令和８年度は Abi-ICT の見直しも進めていきます。また、2030 年に新学習指導要領が実施される予定ですので、それに即したカリキュラムの見直しも進めていきたいと思

います。
　その他の部分につきましては今年度と同様ですので、ご確認をお願いします。以上です。

【質疑応答】
・中学生側・小学生側それぞれの準備の労力はどの程度でしょうか。一大イベント化による負担が気になります。（委員）
➡中学校側は相当大変です。我孫子中の例では、生徒会が中心となってシミュレーションを行っています。継続性はありますが、事務的な負担は大きいです。（委員）
➡小中一貫の日が始まって 10 年が経ち、イベントとして見せる段階から、日常的な交流へシフトする時期に来ています。オンライン交流や、体育祭への参画、部活動紹介動画の作成など、各校区で柔軟に「日常的・継続的」な形を模索してほしいと考えています。（事務局）
・中学校で一緒になる前に、小学校同士で交流することは非常に大事です。東小と西小では、オンラインで自作の絵文字を発表し合ったり、レクを行ったりして、顔見知りを増やしています。これにより「中１の壁」を低くする効果が期待できます。（委員）
・学校によってタブレットの活用スキルに非常に差があります。Teams を知らない学校もあり、中学校で一緒になった際に、スキルの低い方に引きずられてしまうのが一番よろしくない。同じスキルを身につけて卒業させてあげたいです。（委員）
➡まさにそのために、現在「Abi－ICT」の系統表を見直しています。発達段階に応じ、どの小学校から来ても同じ ICT スキルを身につけて中学校へ上がれるよう、指導内容を平準化していきます。（事務局）
・現在は AI を学生が使う時代です。重要なのは「問いの立て方」です。これができないと AI を使いこなせません。ICT スキルを使いこなした上で、どう問いを立てるかという教育も、今後の課題になると感じています。（委員長）

４　その他・連絡
【事務局より】
　今年度の小中一貫教育推進委員会におきまして、皆様の委員任期は、令和８年３月までとなっております。１年間ご協力ありがとうございました。次年度につきましては、また年度が明けてからお願いすることもあるかと思います。その折には、どうぞよろしくお願いいたします。なお、令和８年度第１回小中一貫教育推進委員会は７月 31 日（金）を予定しております。